つるがしま里山サポートクラブ 通信

第１７号
2024.10.01
発行
小澤邦彦
編集
杉山行汪

ＮＰＯ法人化２０年目を迎えて（続）　代表　小澤 邦彦

高倉市民の森

私たちの活動は、市の呼びかけに応じて 2002 年から高徳神社で開始されました。初年度の 1 年間で 12 回の活動を行い、その後、任意団体を立ち上げ、2003 年から正式に活動を開始しました。当時は、市役所、地元企業、HG 助成金財団、埼玉県の「里の山守制度」など、様々な支援を受け、市民、企業、行政が連携する理想的な仕組みで運営されていました。当時クラブ活動資金の処理が大変で、2005 年 12 月に NPO を設立しました。当時、市民活動推進センターの運営に関し市民団体の代表が集まり、運営の議論を重ねていました。市民活動センターは市民活動の連携や情報交換の場として機能していました。

その後、市民活動推進センター廃止され、この 10 年間で、市民団体の連携や世代間のつながりが薄れ、市民活動へ参加する若い世代との連携が薄れ、高齢化が進む団体も増え、活動停止に至る団体も出てきています。しかし、20 年前の楽しい活動をしたメンバーのつながりは現在にも続いていますが、20 才も歳を重ねてしまいました。当時の市民活動の環境は、市民の連携、企業、行政の支援など、活動環境は大変恵まれていたと思い出しています。

私も自然体験で育ちました　村上　信吉

里山サポートクラブへの初めての参加は、昨年の、藤金市民の森での**藤小そうめん流し**準備作業だったと思います。こどもたちのありがとうございますのことばで、疲れが吹き飛びます、との会員どなたかの言葉に共感を覚え、継続して参加させていただくことになりました。

私は、愛媛県今治市沖の四阪島、そして今治市内で育ちました。綺麗な海、島、緑が瞼に浮かびます。小学校の時に、「今治自然科学教室」という催しに参加するのを楽しみにしていました。その催しは 60 年以上毎月欠かさず行われ、今に継続しています。引率の先生方や友人と海、川、森で動植物と触れ合いながら自然の尊さを感じることができました。その経験は、私自身の一部を作ってくれていると思います。

鶴ヶ島は、都心から 1 時間の利便性を持ちながら、市民の森制度での里山の面積は、人口比率で日本でもトップクラスの自然の宝庫です。高倉では、里山サポートクラブの皆さんのおかげで、螢の里が蘇ろうとしています。近所のご家族をお連れしたところ、ご父兄も大はしゃぎでした。

鶴ヶ島の素晴らしい自然を守り、こどもたちに里山と自然を大切に思う気持ちを手渡したいです。また、自然の中でこどもたちと遊ぶことは、私たち自身にとっても楽しみと活力をいただくことができ、そして素晴らしい仲間も得ることができます。

里山サポートクラブの活動にできる限り参加し、鶴ヶ島の里山と、こどもたちの貴重な体験のために微力を尽くしていきたいと考えます。皆さん、よろしくお願いいたします。

７月～９月の主な活動

藤小学校３年生の自然体験教室は今年は９年目です。今年度の１回目は藤金市民の森で森の発見と言うテーマで、その様子は３頁目をご覧下さい。そして２回目は校庭で流しソーメンで竹材でお椀作りをして全長３段で 10 ｍの竹樋でソーメンを頂きました。流しソーメンは発達特性をを持つ子と家族の鶴ヶ島なかよしっ子クラブにも行い夏の人気行事になっています。（下段参照）　社協が募集しているボランティアに応募された方達と一緒に五味ケ谷の森と高倉の森で森の整備活動を行いました。今回の応募者は中学生や高校生が多く、彼らがこの体験から森の大切さと労働の楽しさを学んでくれたら良いなと思いました。

市民に森に来て森の快適さ大切さを体験して貰うには、先ず森に来て貰うことが大事です。今年の夏も里山体験会を藤金市民の森で行いました。異常な暑さが続く中、人が集まるのか心配したが参加者は森の中が意外と過ごし易いと感じたようでした。　里山は本来地域住民が薪や飼料を得る所でしたが今日その使命は市民の憩いの場所となりました。30 年程度で伐採していた樹木巨木化しナラ枯れの被害で枝の落下や倒木の危険が増しています。樹木医の意見を参考に整備計画を練り直しています。更なる脅威は里山の減少で行政の熱意を期待したいものです。

7月～9月 活動実施

7/ 2(火)藤小学校３年生自然体験教室
7/10(水)会員親睦ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ
7/20(土)ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ体験会 in 五味ケ谷の森
8/10(土)ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ体験会 in 高倉の森
8/12(月)流しｿｰﾒﾝ支援(仲良しっ子ｸﾗﾌﾞ)
8/17(土)竹細工指導(ｶﾛｰﾚ学童保育)
9/ 4(水)藤金市民の森整備
9/ 7(土)藤金市民の森里山体験会
9/10(水)ｶﾜﾆﾅ採取・飯盛川、大谷川に放流
9/11(水)逆木倉庫清掃整備
9/17(火)藤小学校３年流しｿｰﾒﾝ体験支援
9/28(日)市民の森の整備方向の検証

１０月～１２月 活動計画

10/20(日)大谷川ｸﾘｰﾝ大作戦
10/26(土)五味ケ谷市民の森整備
11/02(土)五味ケ谷市民の森里山体験会
11/13(水)植樹樹木の購入
11/23(土)運動公園清掃･焼き芋･芋煮
12/11(水)五味ケ谷市民の森整備
12/22(月)家族で楽しむ門松教室

スケジュールは雨などで変更が有りますので、当クラブﾌﾞHPを確認下さい

楽しかった流しソーメン　　三井　和枝

2024 年 8 月 20 日、鶴ヶ島なかよしっ子クラブの第二回目のそうめん流しを開催しました。

私達鶴ヶ島なかよしっ子クラブは発達特性を持つ子と、その親のサークルで、現在７家族、親子約 20 名の登録があります。二年ほど前に里山サポートクラブさんから、「発達特性を持つ子供達も自然の中で思い切り遊ぶ機会を作るお手伝いが出来ないか？」と声を掛けて頂き、お付き合いが始まりました。

初めは里山体験会の敷地の一部をお借りして、竹林の中でオリエンテーリングをするイベントを開催しました。自然の中で遊ぶ我が子達に変化が見られ、成長を実感出来たところへ流しそうめんのお話しを頂きました。

藤小学校の授業の一貫で行われた流しそうめんの楽しそうな様子を見て、私達の子供にも体験させてあげたいと思い、里山サポートクラブさんに鹿厳（ししどおし）の設営や、竹のそばちょこ作りの指導をお願いして鶴の里のんのんで開催することにしました。

（4 頁目下段に続

森の発見　　藤小学校の３年生の校外学習レポート

つるがしま里山サポートクラブが藤小学校３年生の校外学習の協力を初めて今年で９年目です。毎回先生側の要望に沿う形にしているので、決まった形は第８号藤金市民の森を舞台にすることと、年間で２単位の授業を４回実施する程度です。今年度の第１回は３年生 87 名を９班分け、当クラブ員が森を案内しながら生徒たちが森で何かを発見し調べるというスタイルにしました。いわば出たとこ勝負的な手法でした。以下は三人の担任のレポートです。

先日の校外学習では大変お世話になりました。

私たちが、総合的な学習の時間で「地域のひみつを知ろう」という授業をするにあたり、どうしたら子どもたちが自分達から「知りたい！やってみたい！」と思ってくれるのかを考えました。活動ありきで学習に臨んでしまうと、子どもたちが受け身になってしまうと考え、まずは森に入ってみて、そこから自分たちのやりたいこと、知りたいことを考えてもらおうと思いました。

「森の発見プログラム」という名の通り、子供たちは虫や、草花など様々なものを発見して楽しんでいる様子が伺えました。後半の自由行動の時間では、「また竹林に行ってみよう、川に行ってみよう」など、子どもたちのキラキラした声が聞こえてきました。スタッフの皆様に教えていただいた、粉がついている竹があったことや、木が水を吸い上げる仕組み、笹舟を作ったことなどを学校に帰ってきて嬉々として話していました。その後の学習でも、あの黒いトンボはなんていう種類のトンボなのか、孟宗竹と真竹にはどんな違いがあるのかなどそれぞれに調べていました。子どもたちは森に興味を持ち、「竹を使って何かを作りたい」「もっと虫を探してみたい」等それぞれのやりたいことを見つけることができたように思います。

普段はあまりかかわりの少ない（少なかった）森に触れ、能動的に森について考えることができたことが何よりの成果であると思います。これからも継続的に市民の森に赴き、森のよさ、自然と自分との関わり方等、子どもたちなりに見つけていってくれればと思っています。

鶴ヶ島市立藤小学校　第３学年担任　　鈴木　前田　佐藤

作業に危険は付き物ですから　　理事　　小沢　弘

私はさる場所で、竹材切断作業のボランティア活動をしていた際に、チェーンソーで顔面を怪我をするという事故を起こしてしまいました。幸い大事に至りませんでしたが、とはいっても私にとっては大変な怪我でした。救急車で運ばれ４日入院、1年後に形成外科で傷のぼかしで６日入院しました。

作業をしていた場所は斜面でしたので、踏ん張る側の足が滑りバランスを崩してしまったのです。怪我した部分の外観はすっかり原状に復していますが、もう暫らくは形成外科と歯科医に通う必要があります。この事故を皆さんに報告するのは、内面で忸怩たるものがありますが、これからも大好きなボランティア活動をしたいし、仲間には教訓として私の失敗を繰り返してほしくないと思って書いています。編集長から頂いた「作業には危険が付き物ですから」のタイトルは、危険には近づくなと言うのでなく、危険を甘く見ず、危険を如何にして未然に防止するかであり、体験を書いてみようと背を押されました。

事故発生時の作業は、斜面に生えていた竹が横倒しになっていたので、チェーンソーで２メートル程度に切断することでした。チェーンソーの作業は両足を踏ん張っていますが、斜面なので、体重は右足に過重にかかり、地面が湿っていたことと重なって足を滑らせて仕舞ったのです。　当日は安全具として、ヘルメット、防護手袋、チャップス（腰からくるぶしまでを防護する当てもの）を装備していました。しかし靴は普段履いている靴でした。斜面の作業だったので、滑り防止の靴を履いていれば良かったのです。

生活をしていれば常に怪我のもとはあります町を歩いていれば人や自転車、自動車に当たるかもしれません。何の仕事も事故は潜んでいます。それらの危険を想定して先回りして安全を考える。市民の森で草を刈ったり、木や竹を切る作業を楽しんで行えるように、クラブとしても体制の整備を提案していきたいと思います。これが事故の時かぶっていたヘルメットです、かぶっていなければ、もっと大きな傷になっていたかもしれません。

２頁目からの続き）

第一回目は台風で開催が危ぶまれましたが、天が私達に味方してくれて、午前中の晴れ間に行うことが出来ました。

多くの方に好評を頂いたので、今回第二回目を開催しました。今回は調理をしたい子が現れて、そうめんを茹でたり、出来たものを運ぶお手伝いもしてくれました。

器作りではお父さんと一緒にお母さんの分も頑張って作る子、丁寧にヤスリをかける子、子供達にノコギリの使い方を丁寧に教えて下さる里山サポートクラブさんの姿が印象的でした。里山サポートクラブさんのメンバーで調理担当の方が作って下さった冷や汁が絶品で、そうめんをいくらでも食べられました。　本格的な流しそうめんは初めてという保護者も多く、童心に帰って子供達と一緒に流れて来るそうめんを逃がさないように頑張って掬う姿も微笑ましかったです。　今回の流しそうめんを通して感じたことは、様々な年齢層の人々が集い、世代間交流を通して多くのことを学ぶ大切差でした。

編集後記

今号も色々な方に原稿をお願いしました。そして皆さんが快く引き受けてくれました。お陰で何とか４頁の紙面を埋めることができました。実にありがたいことです。寄稿して頂いた方々に御礼申し上げます。それはとりも直さず里山サポートクラブが活発に活動している証でもあります。里山を残していく環境は厳しくなりつつありますが頑張りたい。

：http://www.satoyamasupport.com/